

所沢文化と歴史の中心・旧町めぐり

2018-05-17 記 小倉洋一

■実施日：2018-05-10（木） ■参加者：23 名 ■場所：所沢旧町
■ガイド：野老澤町造商店三上博史氏

古くは所沢の町・旧町と言えば、所沢銀座通りを指していました。今は高層のマンションが立ち並び、かつての所沢の商業の中心地としての賑わいは、所沢駅前にその地位を譲りました。区画整理事業もあり今後、益々発展して町も様変わりしていくと思われます。

今回はそのような所沢の町の歴史を野老澤町造商店の名物スタッフである（通称：髭爺（ひげじい）こと三上博史氏にお願いしてご案内頂きました。

当日の天気予報は曇りで午後には雨模様とありましたが、雨は朝から降りだし参加人数も危惧されましたが、23 名の参加者が 9 時 20 分には中央公民館に集合しました。

まずは、野老澤町造商店に移動、現在「野老澤町造商店企画展 明治 150 周年：明治時代の所澤」を開催中で、三上さんの説明と明治期からの写真・記事等により時代の変遷が分かりやすく展示されていました。

次に明治天皇行在所としての齋藤家を見学しました。齋藤家は町の旧家で江戸時代末期の建物としても貴重な価値ある建物です。明治 16 年（1883）4 月、明治天皇は飯能で举行された近衛諸隊春季小演習展覧のため行幸し、所沢で御休泊されるにあたり、明治天皇行在所として齋藤家が使われました。



三上博史氏による、所沢文化・歴史解説

銀座中央広場には明治 24 年に創業した山田屋呉服店がありました。時代の先端を行く日用雑貨も取り扱う所沢で最初のデパートメントストアーとして賑わいました。大型スーパーが進出する昭和 40 年頃まで営業していました。

木綿糸商 秋田家 井筒屋は屋号で所沢を代表する綿糸商でした。明治 38 年に建てられた 2 階建て出桁（だしげた）の造り。正面は全ての部材を銅板で覆い、東西の外壁は漆屋造り。奥に続く敷地

内の路地に面して門が建っています。門は「腕木門」で屋根は切り妻の瓦葺、箕甲、風切丸、飾り棟をつけている。品のよい門です。門扉には秋田家の家紋が浮彫りされています。門に続く塀は腰長押を取り付け、これより下を下見坂、上を格子の風窓を入れた漆喰壁で仕上げ、屋根瓦との間には透かしをとっています。塀は斜めに下がり波打って見えますが、東川に向かって地面が低くなっている、その地形に沿って造られたからです。平成 28 年 2 月に国の登録有形文化財になりました。



銀座通りに於いての説明

坂稲荷神社は古くより身近な信仰の対象として所沢宿の下町の商人を中心に信仰を集めていたお稲荷様です。全国でも珍しい 3 匹の子狐を連れた狐の石像が置かれ、子育て・安産のご利益があるとされています。「子育て稲荷」として、子供をもつ母親が多く訪れています。尚、所沢の三・八の市は、ここを起点にして上町（金山町）まで露天商が出て賑わっていました。

明治 43 年（1910）飛行場開設にともない、明治 44 年 7 月に所沢本通りから飛行場正面に至る土地を道路用地として買収して、所沢停車場から飛行場まで飛行機を運ぶ為に、切り開いて新田から東川に至るまで広い坂道の道路が造られました。ファルマン交差点から北に下がる現在、飛行機新道と呼ばれています。

川端霊園の墓地内には江戸時代の将棋の名人「福泉藤吉」と所沢まつりで演奏される重松流囃子の創始者「古谷重松」の墓があります。藤吉の墓は台石を将棋盤、香炉を駒に模った大変珍しいものです。

熊野神社は新井地区を流れる東川沿いにあり、旧下新井村の鎮守。蛇のしめ縄がある珍しい鳥居が有名です。



熊野神社・鳥居

旭橋は昭和 5 年（1930）に巨大な赤御影石に画期的な彫刻をし、欄干は青銅、タイルで装飾、六角形の唐草模様をあしらった豪華な青銅の電灯を要所に取り付けたヨーロッパ風のモダンな橋です。平成 21 年（2009）国の登録有形文化財に指定されました。



旭 橋

所沢の歴史が凝縮された旧町巡りも、所沢市内旧町の商家の 5 代目で子供の頃から街を知りつくしている生粋の所沢っ子の三上さんのガイドにより、隅々まで文化と歴史を堪能しました。



ランチのかしわのくわ焼きセット、ハヤシライス



美好亭

担当：E グループ 藤澤、沖本、稲村、栗屋、室井、鈴木(端)、小倉